



最期はどこで誰に看取られたいか？

ケアホーム希望も開設して3年目を迎える。

そして、私たちは21名の利用者の最期に立ち会った。振り返ると人の最期にはそれぞれの人生ドラマがある。

Kさん76歳は、57歳の時に脳梗塞で倒れ、左半身不全麻痺になった。更に74歳の時に直腸癌が見つかり人工肛門をつくった。精神的に落ち込んだが、それを支えたのは妻と娘であった。在宅療養生活をする中で入退院を何度も繰り返し、そのたびに体力が落ちていくため、訪問看護が導入になった。病状観察、入浴介助、人工肛門のパウチ交換、療養相談や緊急時の対応等と看護師の役割は大きい。また家族の介護疲れの軽減を図るためにケアホーム希望の「通い」や「泊まり」のサービスを利用しながら在宅療養生活を維持していったが、だんだんと病状が進行し体中が痛く辛くて、何に対しても拒否があったため、家で最期を迎えるのは難しいのではないかと…？



しかし、Kさんは「ずっとここ（自宅）に居る…」と言い、家族の不安は大きかったが、その望みを叶えたいと願い、医者・看護師・介護職が連携を図り、1日に何回も訪問し緊急時にも対応した。点滴や吸引器、在宅酸素と、まるで病室と同じになったが、そこにはKさんが歩んできたたくさんの思い出の品物と愛する家族の写真が

飾られ、あたたかい雰囲気ではいっぱいだった。

真夜中にKさんの意識が遠くなる中、一晩中妻と娘は「お父さん、Y看護師が来るまではがんばるんだよ！」と耳元で何度も何度も声を掛け続けた。

翌朝、Y看護師が訪問して、身体をきれいに清拭、着替えをし、気持ちよさそうに、眠るように愛する妻と娘に見守られ天国へと旅立った。



Yさん、いろいろ
ありがとう。
妻のことも頼んだよ…

家で最期を迎えるということは、家族にとってとても不安で大変なことです。安らかな最期を迎えられた時、私たちはこの仕事に誇りを持ち、そして常に家族に寄り添い、心の支えにもなれるよう日々努力し続けたいと思っています。

Kさん、天国で安らかに… ありがとう。



送別会を

Yさんの大好きなお寿司屋さんでしました

施設に入所することになりました
皆さん、今日はありがとうございます



旨いなあ



みんなで
食べに行くと
美味しい

大好きなお寿司
いくつ食べられる
かな？



みんな
応援してるから
頑張ってね。



うん

元気で
がんばって！



新規利用者さんご紹介



Sさん 86歳

肺炎で入院した後、体力が低下し階段昇降ができなかったが、今はリハビリをし3階にある自宅から通っています！



Y子さん 88歳

慢性心不全により、在宅酸素での生活ですが、まだまだお洒落をして出かけたかったので毎日リハビリをし、がんばります！



Kさん 89歳

筋力アップのため、週2回通いのサービスを利用しリハビリがんでいます！



司法書士による『相続』のお話…

『相続』…

ご遺族や知人の方々の大きな悲しみにも関わらず多くの問題が発生します。普段は考えもしない複雑な手続きも必要となります。そんな時、どんな事に気を付ければよいか、話を伺いました。